

# 月曜評論

## 今では遅すぎる 日本外交とアジア

「補完的な役割」を果たすに  
とどめな方がよい—とのかな  
りシヨッキングな意見が提起さ  
れたことを知った。

※.....☆.....※

先週の三日間、私は八王子郊  
外の大学をシナー・ハウスで開  
かれた第三回国際学生セミナー  
に招かれ、在日留学生や日本人  
学生とともに、日本とアジア諸  
国との経済協力や文化交流のあ  
り方をめぐる討論に参加してい  
た。今回の共通テーマは「アジ  
アの平和と開発—日本を考え  
る」で、私が受け持ったセシ  
ョンの個別テーマは「アジアの  
新しい国際環境と日本外交」と  
いうものであった。ツイリン  
ン、アフカマツタ、オースト  
ラリアなどからの留学生に日本  
の各大学から参加した学生を交  
えて、セシナー・ハウスをとり  
まわし、美しい自然の中で、連日深  
夜まで問題を話し合った。もと  
より、こうしたセミナーに参加  
する学生たちであるから、かな  
りの問題意識をもち、それぞれ  
国際交流の経験をもった学生た  
ちが多かった。

三日間の討論を通じて共通し  
て提起された問題点の一つは、  
次のようなものであったといえ  
よう。すなわち、日本とアジア  
の間、つぎつぎと、  
えは、今日の東南アジア観光旅  
行の隆盛にもかかわらず、アジ  
アにたいする関心が本質的な  
ところではきわめて稀薄であるこ  
と。

中嶋 嶺雄



※.....☆.....※

このかわりあひについて、多  
くの批判や反省がなされてお  
り、たゞは援助問題一つをと  
りて、援助の量や質が問  
題にされる以上、そもそも援  
助とは何かが問われるなど、一  
方ではかなりの認識の深まりが  
あるのだが、そうした問題を日  
ASEAN諸国の代表がアジア  
の開発のための地域協力に関  
心し、日本をリーダー格として設  
立されたこの会議は、むしろ  
存在していることじれつなき

そのようなセミナーでいささ  
か疲弊しきつていたとき、私た  
ちはタイでの学生の決起の聲に  
たいして自己を調整させる道  
を見出そうと努力しはじめた  
こともたしかであった。As  
理念をいまこそ考え直すべきで  
あろうが、田中・大平外交はこ  
の点でアジアをほとんどつかん  
国々の声があったことを思い出  
す。こうして、日中、日米、日

シヤに背を向けて大國志向の首  
脳外交の方に先ず走ってしまっ  
た。来年一月中旬と参院選後  
に、アジア諸国をほんの駆け足  
程度で訪問する計画もあるよう  
だが、それではもうおそすぎる  
し、そのような姑息なアジア訪  
問なら、かえってしない方がよ  
いようにも思う。

(東大助教授)